

学校改善の取組にかかる評価結果の活用のための研究

1. 事業の実施報告

(1) 実践研究のねらい

- ・平成21年度の実践研究を含め、学校評価のシステム作り、及び定着に向けて取り組んできたが、平成22年度はさらに学校評価活動や情報提供によって得られた結果を、教育活動の進捗や学校改善の取組に確実に役立てるための実践研究を推進する。

(2) 実践研究の実施状況

①神戸市学校評価事業運営委員会の開催（7月26日、3月8日）：

学識経験者や教職員、保護者、地域住民の代表、神戸市教育委員会担当者等の参加による会議を2回開催した。神戸の実情に応じた学校評価の在り方、進め方、学校経営への生かし方、現状や改善の方向性などについて協議した。

②実践協力校連絡会の開催（6月24日、10月14日、2月18日）：

これまでの取組成果を継続しつつ、実践協力校7校による神戸市全体の学校評価の先導的研究を推進する情報交換会を3回行った。さらに学校評価活動や評価結果をより効果的、効率的に学校改善に生かす評価事業のあり方を探るべく、文部科学省から紹介のあったPHP総合研究所の「学校運営改善モデル」を協力校に紹介し、活用を勧めた。

③「学校評価」管理職研修の実施（9月29日）：

教職員の研修を担当する神戸市総合教育センター研修室と連携し、新任の校園長を対象とした管理職自主研修「学校経営塾」を実施した。兵庫教育大学の竺沙知章准教授を講師に招き、講義と演習を軸に評価システムの構築や評価結果を学校改善に結びつける手法を学んだ。

④「学校評価を活用した学校の改善プログラム」の紹介（7月）：

文部科学省からの研究委託でまとめられた、PHP総合研究所の「学校運営改善モデル」を活用しやすいように、紹介資料を作成の上、全市立学校園に資料として配布した。

⑤「学校評価に生かせるマークシート処理システム導入マニュアル」の作成（7月）：

慶応大学SFCで開発された「SMP学校評価支援システム」を、神戸市の小中学校に導入しているパソコンの統合運営システム（KIIF）でも活用できるよう、導入・利用に関するマニュアルを作成・配布した。

⑥学校評議員向けリーフレット（10月）と学校教職員向けリーフレット（11月）の作成と配布：

学校園が学校評価に取り組むに際して、関係者評価を行うメンバーの構成員は年毎に変化する可能性が高く、また近年は教職員の世代交代も進んでおり、学校評価に対する理解に程度の差が生じているのが現状である。学校評価に対する基本的な理解を促進する意味で、全評議員向けのリーフレット、及び全校園向けのリーフレットを作成し、配布活用した。

⑦「神戸市学校評価実践事例集Vol.2」の作成と配布（3月）：

今年度取り組んだ「学校評価活動を生かした学校改善の充実」に関する取組を中心として、神戸市各学校園で取り組まれた学校評価の実践事例について、基本的な学校評価の進め方やシステムなどから分かりやすくまとめたものを作成した。一昨年度作成の「神戸市学校評価ガイドライン」、昨年度作成の「神戸市学校評価実践事例集Vol.1」とあわせて、3冊を参考にする

ことで学校評価の内容や手順が具体的に分かるよう編集している。

2. 実践研究の成果

- ① 年度末に「神戸市学校評価・学校評議員制度実施状況調査」を行い、神戸市における全市立幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の学校評価に関する状況を取りまとめたところ、自己評価の実施、公表、報告のいずれも22年度は100%の実施が達成できていた。その他の項目についても全体的に実施率等の各数値が上昇しており、学校評価そのものがシステムとして学校園に定着するとともに機能を果たしつつある。
- ② 神戸市立の学校園におけるアンケート処理に関するマークシート処理システム導入について、上記1-(2)-⑤の取組の結果、導入校が45校ほどに増えてきた。また、今後の導入を検討している学校園も増え、「簡素で効果的な学校評価」の実施に向け役立っている。
- ③ 前述のPHP総合研究所「学校運営改善モデル」を市立全校園に紹介したことなどにより、短期サイクルでのP→D→C→Aシステムを実施する学校園が増えてきた。1学期終了時点で短期的な評価・検証を行い、2学期以降の機動的な学校運営を可能にしている事例が多くなっている。
- ④ 学校評価に関する評議員向けや教職員向けのリーフレットを作って配布したり、管理職自主研修で「学校評価」が取り上げたりしたこともあって、各校園における理解と実践が一層進んだ。評議員や教職員は入れ替わりがあり、特に新しく就任したり担当した者にとっては役に立つとの声が届いている。また、学校評価を数値や評定を出すことに終わらせず、「学校評価の結果をもとに学校について感じていることを話し合う場が大切である」といったような前向きな感想も寄せられた。

3. 今後の取組予定

- ① 上記、「神戸市学校評価・学校評議員制度実施状況調査」の結果を集計・分析し、その達成率や文章表記から見られる成果や課題といったものを取りまとめ、次年度における神戸市の学校評価の推進に役立てる。
- ② 今年度で開催した神戸市学校評価事業運営委員会（2回）と実践協力校連絡会（3回）で出された意見を取りまとめ、今後の神戸市における学校評価のあり方や進め方の参考とする。
- ③ 上記、①と②の課題を取りまとめ、次年度の神戸市における学校評価を進める上での新たなテーマ（研究課題）を決定する。同様に、文部科学省の平成23年度「学校評価・情報提供の充実・改善等に向けた取組」の公募に向けて、そのテーマに則って事業の推進を図れるよう準備する。

- I 学校評価の3つの手法
- II 学校評価に関する年間計画
- III 自己評価の進め方
- IV 外部アンケートの実施と活用
- V 学校関係者（外部）評価の進め方
- VI 学校評価を学校運営に生かすには

【実践事例】

- 1. 〈より客観性を持たせるための数値化の工夫と学校評価への利用〉明親小学校
 - 2. 〈情報提供の工夫・充実と保護者・地域との連携〉小部東小学校
 - 3. 〈複数年の取組みに基づく経年変化の利用〉垂水小学校
 - 4. 〈前年の評価活動に基づく、評価項目や評価基準、評価活動の見直しや重点化〉住吉中学校
 - 5. 〈短期的なPDCAを活用した教育活動の改善〉鷹取中学校
 - 6. 〈高等学校における学校評価の工夫〉六甲アイランド高校
 - 7. 〈自校の課題の把握と学校の特長を生かした学校評価の工夫〉垂水養護学校
- VII. 学校評価の報告と公表
- VIII. 学校評価に関する法令の規定について

【資料】学校評価に生かせるマークシート処理システム導入マニュアル

○パンフレット「より魅力ある学校へ!」「地域の教育力を学校へ!」

学校評価の活用によって
より魅力ある学校へ!

学校評価とは、各学校が目標をもとに実践を進め、その達成度や取組の状況を明らかにして改善に活かしていくしくみです。

学校評価の実施と結果の公表により、

- 学校の特色、優れた点、見直すべき点をより明確に意識することができる
- 共通の目標に向かって取り組み、成果や課題を共有することで、組織の活性化が図られる
- 学校に関わる人々との情報やり取りや連携・協力により、学校への理解がより深まることなどが期待できます。

「改善」というと見直すべき点ばかりに目が向きがちですが、自分たちの学校をアピールし、情報発信の手法・コミュニケーションツールとして有効活用が可能です。「法律で決まっているから」「手間がかかりそう」と考えずに、より魅力ある学校づくりを進めていきましょう!

神戸市教育委員会

学校評議員のみなさんへ

地域の教育力を学校へ!
— 家庭・地域・学校の連携 —

神戸市では「神戸市教育振興基本計画」に基づき、家庭や地域との連携を深めながら、学校園ごとに創意工夫をこらした教育活動を推進しています。
そのような中で、保護者や地域の皆さまの信頼に応え、地域に開かれた特色ある学校づくりを進めるための大切なしくみのひとつが「学校評議員制度」です。

地域 学校 家庭

学校評議員制度とは?

- ① 教育活動その他の学校運営への意見を述べる
- ② 保護者・地域との連携協力の橋渡し役を担う
- ③ 教育活動その他の学校運営について評価を行う

「学校評議員制度」は、地域や保護者の方々の意見を、幅広く校長が聞くためのものです。

○学校評議員は、当該学校の職員以外で次のいずれかに該当する方の中から、校長の推薦により、教育長が委嘱します（学校教育法施行規則第49条ほか）。
・教育に関して理解と識見を有する方
・学校が地域社会の連携、支援及び意見を求める組織の代表者または構成員